

兵庫県神戸市の神出^{かんで}開拓は、播州平野西部の松林であった。

満州の国立奉天獣疫研究所長であった井上辰藏氏（神出開拓農協初代組合長）が、戦後、研究所の教え子らに呼びかけて48年に入植した（15戸）。

入植以来、共同経営という形をとり、経営内容は酪農、養豚、水稻、観光芋掘園、ドライブインなど、多岐にわたった。

当初は水不足や、痩せた土地に大変な苦労があったが、皆が団結して乗り越えてきた。

中でも、養豚において四元交配豚（ヨークシャー×中国豚×バークシャー×野猪）にバークシャーを戻し交配した「ゴールデン神出」が開発された。柔らかくておいしく、神戸牛にも引けを取らないとされたが、56年（昭和30年代）は、需要が付いてこれず、81年に生産中止となった。

86年には38年続いた共同経営を廃止した。神出開拓農協所有の施設等は組合員個人に移譲又は貸与した。

また、特定法人貸付事業により、農地の一部は、企業に貸し出され、現在も農作物が生産されている。

神出開拓農協の近くの広場には、今も入植23・40・60周年記念碑と井上辰藏先生の像が、きれいな状態で立っている。

神出（かんで） 28-111-1

①調査日 平成28年10月13日

②所在 神戸市西区神出町

③地区の沿革 満州より引揚げた農学博士井上辰蔵氏とその家族及び元満州開拓青年義勇隊隊員らとその家族が入植してきたことに始まる。以後昭和30年迄に30戸が入植し、そのうち離農する等の理由から20戸が離脱し、組合員戸数は合計で10戸となった。

④設置年月日 昭和46年3月20日

⑤設置者 入植者

⑥碑文（表面） 入植二十三周年記念 開拓魂

昭和四十六年三月二十日 井上辰蔵書

開拓は人をつくる聖業である

終戦により我らは全くの裸一貫で満州から引揚げてきた幸いに恩師農学博士井上辰蔵先生指導のもとに昭和廿三年三月廿日四十二ヘクタールに及ぶこの地に開拓の鋤をおろした雨露をしのぐため一つの天幕を張り身に弊衣をまとい食うに糧なき時は野草をあさり苦難に絶えつ、昭和廿四年五月バンガロー式協同宿舎を建設した開墾田畑地は逐次拡大したが水不足により農作物は不作が続いたので昭和三十一年八月地下百四十米迄さく井し日量二千屯余の水資源を得た翌昭和三十三年一月トラクターを導入して七ヘクタールの水田を拓き食糧増産に寄与した我らは当初の目標たる草地農業による畜産主体の開拓に邁進するため昭和三十三年十月大型トラクターと附属作業機械を購入し同年搾乳所をも建設して開拓地における機械化農業の端緒を開いた昭和四十年九月台風により住宅は全壊又畜舎も半壊農作物は半ば減収の被害を被った我らは一致協力被害の復旧と共に新住宅の建設を実現した昭和四十四年には籠の谷の未利用地七ヘクタールを開発し当組合において改良した新品種豚ゴールデン神出種の増殖を図ったこの間有為の若人村瀬泰三森口梅雄初め拓友三十余名のやむなき離農を惜む 我らは青年の情熱と旺盛なる開拓魂に徹し恩師の信条である誠を軌範として共同経営による畜産主体の機械化草地農業を実践して現在に至る 国の開拓行政が一般農政に移行する今日神出開拓入殖廿三周年を記念してこの碑を建てる

昭和四十六年三月廿日

神出開拓農業協同組合 組合員一同

⑦碑文（裏面）

建立者氏名 入植者夫婦10組氏名 故人1名氏名

我らこの地を開拓した者 この家族と共にこの碑の中に永久に眠る

⑧現在の状況 神出開拓農業協同組合の事務所や組合員とその縁故者の家屋が点在する地域にあり、周辺の清掃や碑文の塗り直しを行うなどの維持管理が組合の主導でなされ

ており、綺麗な状態が保持されている。建立当時は納骨堂として使用していた。